

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年1月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3490100116		
法人名	社会福祉法人 広島光明学園		
事業所名	グループホーム光明牛田新町		
所在地	広島市東区牛田新町3丁目20-15 (電話)082-222-3223		
自己評価作成日	平成24年1月16日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490100116&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	〒739-1733 広島県広島市安佐北区口田南4丁目46-9
訪問調査日	平成24年1月30日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年4月より開園となった広島光明学園 牛田新町光明保育園の園児さんとの触れ合い、関わりを大切にし、利用者様に生活のメリハリを持っていただくようにしています。季節ごとの行事には、参加をさせていただくとともに、外出行事においても、保育園と合同で開催したりしています。また、ご家族、地域のボランティアさんによる演劇などの催しを、協力していただくとともに積極的に取り入れています。今後も、いろいろな方々の協力をお願いするとともに、地域に溶け込んだグループホームを目指したいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

同じ敷地内に保育園、サービスが併設されており、保育園児との交流が利用者の生活を生き生きさせるのに役立っています。一人ひとりのペースで暮らしながらも、昼食前にラジオ体操と口腔体操、午後はおやつ前に皆で合唱したりDVDで時代劇の鑑賞をするなど共通の時間を持つ一方、おやつ後は夕食まで自由に過ごすなど、ゆるやかな日課と自由な時間を定め利用者の生活にメリハリをつける工夫がされています。演劇などのボランティアも積極的に受け入れ、宮島や不動院への遠足、広島城の菊花展、ドリミネーションの観賞など外出も頻繁に行われています。職員は「自分が入りたいと思う施設」になるように、常に反省しながら優しい介護を心掛けています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念そのものが、地域密着をめざしているので実践につなげている。	法人全体の理念三宝一如をより具体化した、ホームの理念(・家庭的な雰囲気を大切にします。・地域の人との交流を心掛けます。・明るい笑顔を絶やさないようこころがけます。)の実践に努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事にも参加させてもらい、声もかけていただいている。	町内会に加入し、町内の行事、河川敷清掃に参加したり、地域交流スペースを提供したりしている。また、ホームの行事をご案内し、同一敷地内にある保育園で実施される幼児教室、子育て支援センター開催時には地域の方と交流している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事、法人行事の参加によって、地域の人々との交流を通して、理解や支援の方法を決めて、交流を深めている。			
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会長、民生委員、家族、地域包括の職員の意見を参考にサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、2か月に1回民生委員、家族、地域包括支援センター、保育園長、ホーム長、介護支援専門員が参加して開催している。ホームの実情報告や行事案内のほか、季節ごとの課題、害虫(ムカデ)対策、熱中症、風邪・インフルエンザ等への対応について説明し、参加者からの意見・アドバイスなどサービス向上に生かしている。		
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	避難訓練等で、消防署との連携と指導を受け、利用者様の安全確保に努めている。	消防署と連携を密にとり、避難訓練等指導を受け利用者様の安全確保に努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関には施錠はしていないが、自動ドアによって工夫をしている。また、モニターによる見守りの工夫も同時にしている。	身体拘束については研修し、玄関の施錠はしていない。しかし、ホームの前の道路は交通量が多く大変危険であることから、自動ドアの開閉を工夫し、モニターを設置し見守りをしている。非常階段も前述の理由から施錠している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修や担当者会議を通じて学び、利用者様の人生そのものを尊重するように努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内研修で学ぶとともに、ご家族自身で成年後見制度の手続きをされた時に全面協力させてもらった経験が役立っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、重要事項の説明をさせていただき、理解と納得に努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が来園された時には、声掛けさせていただき利用者様に対しての気づきや要望などをお聞きして、プラン等に反映させている。	家族はよく訪問されるので、機会をとらえて利用者の暮らしぶりを伝え、本人や家族の要望や心配事を伺い介護プランに反映させている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議、アンケート、ケアプランによって、反映させている。	利用者の体調や日常生活様子など担当の職員の観察や意見を大切に、ミーティングや書面によるサービス向上への提言等、ケアプランや運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	極力希望休をシフトに反映させ、業務メリハリとゆとりを持ってもらうように努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりの目標を把握し、個別面接などにより個々にアドバイスや指導に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	施設外研修に参加させていただき、他事業所の生の意見交換により参考にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>基本情報を理解し、アセスメント等を通して少しずつ距離感を縮めていき安心感のある居場所であるように働きかけている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族の立場を理解し、悲しみ、苦しみ、悩みを共有するように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>利用者様の状態において、もし何かあった場合等を想定して医療との連携や当法人との連携にも努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者様の状態のレベルが厳しくなっている状況の中、介助に精一杯で暮らしを共有するまでにはまだ勉強が必要である。</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ホームを自宅として捉え、ご家族の出入りを遠慮ないように努めている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>法人行事などを通じて、地域の人々、利用者様ご家族や友人にも来園していただけるように努めている。</p>	<p>学園祭や芸能発表会など法人の行事を通じて、地域の方々、利用者、家族、友人に参加していただき交流を深められるよう努めている。また、なじみの美容院へ行かれる方もある。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>ホールでのテーブルで、隣近所のように少数での関わりを大切にしている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>地域の方の場合は、行事などを通じて、身近であることもあり関わりを大切にし相談や支援を心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何かあれば、担当者会議を開き、一人ひとりの対応に動いている。	担当者制にしているため、一人ひとりの希望や意向を聞き現状報告書を提出し、できるだけ、本人の要望に沿えるようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者様との会話の中からの情報、ご家族からの情報を職員で共有するように努め、生活環境、生活歴の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	月ごとの現状報告書の作成により、モニタリング等により分析し現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	困難な場合などには、特にとにかくチャレンジしてみようと、チームとしてサービスの提供に努め、プランに反映させている。	車いすから椅子へ、歩行訓練をする等、出来ることできないことを記録し、本人、家族、はじめ関係者が検討して介護計画を立てモニタリングをしより良いサービスに努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録に加え、担当者会議、ヒヤリハットでの情報共有により、現状のサービスを見直すように努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族との連携を大切に、いっしょに支えあうように取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	隣接する保育園の園児さんとの触れ合い、法人行事、地域行事の参加により、生活のメリハリを持っていただくようにしてマンネリな生活にならないように心掛けている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	地域の主治医の週一回の往診、電話連絡等により、より充実した医療の支援に努めている。	主治医の往診は週1回あり、歯科も訪問診療を依頼している。症状によっては電話連絡し必要な看護が受けられるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	健康チェックや身体状況の変化については、看護師の指示のもと対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と入院先の病院との連携をご家族とともに考え、万が一の時に備え、関係づくりを行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療以外の分野においては、出来る限りの支援を検討しているが、医療行為が必要になった場合は、入院先や他の選択をご家族、地域関係者とともに取り組んでいる。	重度化された場合や終末期について、本人・家族と入所の段階で充分話し合い、家族にも協力して頂き、主治医や地域関係者とともに取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	特に、夜勤帯を想定し、マニュアルの確認とともに抜き打ちの訓練をしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に防災、避難訓練を行い危機管理を心掛けている。	避難訓練は、保育園が併設されていることから、毎月実施している。利用者にも、訓練と知らせないで一緒に行動して頂いている。今後、緊急通報装置を使用している訓練も検討しており、常に危機管理を心掛けている。	
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣い、声掛けについて、優しく対応するように心掛けているが、それと同時に表情も大切にしている。	一人ひとりの人格を尊重した言葉づかいに努め、トイレ誘導などもプライバシーを損ねないよう注意し優しく接するようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人からの訴えがあれば、自己決定できるように本人への声かけやご家族からの間接的要望を聞いている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様一人ひとりのペースより、時間的な問題により事業所側のペースになったりすることがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日ごろは、ご本人の好みに任せている状況と、ご家族好みの対応になっているが、おしゃれまではできていない。外出時には、身だしなみを整え支援できている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	徐々に、職員と利用者様がいっしょに食事の準備、片付けが出来なくなっている状況になっている。	食事は彩、味付けも考慮され食べやすくしてある。また、おやつ作りや茶碗洗いなど、食事の準備、後片付けなど、職員と一緒にしているが、できる方が少なくなってきた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量については確認し、バランスをとるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科との連携により、口腔ケアに努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツにならないように、常にトイレ誘導の対応をとっている。	リハビリパンツを使用し、おむつにならないようトイレ誘導し、トイレでの排せつに努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便通がよくなる食事(食物繊維、乳酸菌など)を取り入れるように工夫をしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	事業所側のベースになっているが、個々のベースをつかみ無理のないように対応している。	入浴は週2～3回で、希望者は日曜も入浴できる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様のペースで、眠っていただいている。昼夜逆転にならないように、日中のレクリエーションや、夜間の見守り、付き添いの対応をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬については、マニュアルを作成し何人もの職員の確認うえ、服薬事故がないことと利用者様の変化に注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の楽しみより、集団での楽しみを共有して、それが個々の楽しみにつながっている。しかし、今後は、個々の楽しみを大切に、支援が必要になっている認識している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出できる余裕や時間があれば、ご家族とともに協力しながら支援している。また、保育園の園児さんとの交流によって、外出する機会が増えている。	手作り弁当を持って不動院へ遠足、広島城菊花展、ドリミネーション、法人本部で開催されるシルバー祭や不動院の盆踊りに出かけたりしている。また、保育園の園児との交流は楽しみである。保育園への渡り廊下が工事中で、今後一層交流の機会が増す予定である。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭は、基本にご家族が管理されている。一部、ご家族の同意のもと事業所で管理させていただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様自身の携帯電話で対応したり、要望により事業所の電話利用して支援している。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様が作られた作品を掲示したり、季節感がある置物や植物を飾ったりして、生活にメリハリを持たせている。	利用者皆で作った貼り絵などの作品や行事の写真集を展示、季節ごとの置物や鉢植えが飾られている。キッチンの調理の音など家庭的な雰囲気がある。夏にはゴーヤや朝顔で緑のカーテンができるということである。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファなどを用意したり、テーブルの配置により、くつろいでいただけるように工夫をしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたものや、プレゼントなどを置いて少しでも安心して居心地がよいように感じてくださいように工夫している。	居室には家族の写真や孫の作品、チェスト等使い慣れた家具が持ち込まれ居心地良く暮らす工夫がされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリー等で、安全確保に努め、行動の制限をしないように努めている。		

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホーム光明牛田新町

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム光明牛田新町

作成日 平成24年1月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	14	利用者様の余暇活動を集団と個別でサービスを提供する	複数のスタッフによるレクリエーションの流れを築いていく	業務により、スタッフが交代してもレクリエーションがとぎれなないように連携を図る	1年
2	18	利用者様が外出される機会を増やす環境を整える	個別の散歩や集団での外出行事をご家族、地域の協力を得ながら提供していく	ご家族や地域のボランティアさんの参加を促し利用者様に安心と生活のメリハリを持っていただく	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。